

## 修士の学位申請に関する手続き及び審査体制・基準等について

### 1 修士の学位

修士課程または博士課程前期課程に所定の期間在学し、当該研究科所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたのち、当該課程の目的に応じ、修士論文または特定の課題についての研究成果の審査及び試験に合格した者は、その課程を修了した者とされ、修士の学位が授与されます（大学院学則第24条、第26条）。

### 2 修士論文審査体制・方法

#### (1) 審査体制

修士論文または特定の課題についての研究成果の審査は、研究科委員会の定める審査委員によって行います。

審査委員は、当該修士論文または特定の課題についての研究成果に関連ある研究領域の教員3名以上とし、主査を1名、副査を2名以上とします。ただし、特別の事情がある場合には副査を1名とすることがあります。

#### (2) 審査方法

##### ① 最終試験

修士の学位に関する最終試験は、修士論文または特定の課題についての研究成果の提出者の研究成果を確認する目的をもって、審査委員が修士論文または特定の課題についての研究成果を中心とし、試問の方法によって行います。試問は、口頭によりますが、筆答試問を併せ行うことがあります。

##### ② 審査期間

修士論文または特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験は、当該修士論文または特定の課題についての研究成果の提出期限後3カ月以内に終了します。

##### ③ 審査結果

修士論文または特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験の結果は、研究科委員会の承認を得て決定します。

### 3 修士論文審査基準

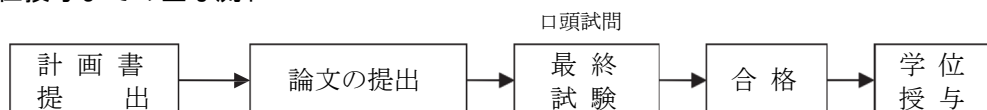
学位論文（修士）を評価する際には、次の点を考慮し審査を行います。

- (1) 研究テーマが明確であり、社会的意義あるいは学術的意義が意識されているか
- (2) 論文構成において、一貫した論理展開がなされ、明確な結論が導かれているか
- (3) 研究目的にふさわしい分析方法が用いられ、資料やデータの収集、分析、解釈は適切か
- (4) 先行研究や関連した研究が十分に調査され、考察されているか
- (5) 研究テーマの分析内容において、独自の知見など独創的な観点が加えられているか

特定の課題についての研究成果を評価する際には、次の点を考慮し審査を行います。

- (1) 特定の課題が明確であり、問題関心が認められるか
- (2) 特定の課題についての研究成果の構成において、一貫した論理展開がなされ、明確な結論が導かれているか
- (3) 研究目的にふさわしい分析方法が用いられ、資料やデータの収集、分析、解釈は適切か
- (4) 先行研究や関連した研究が十分に調査され、考察されているか
- (5) 特定の課題の分析内容において、独自の知見など独創的な観点が加えられているか

### 4 学位授与までの主な流れ



## 5 スケジュール

詳細な日程は、別紙「提出要領」を参照してください。

期 限 (期 日)		
事項	3 月期学位授与	9 月期学位授与
計画書の提出	10 月中旬	4 月中旬～下旬
論文の提出	1 月中旬	7 月中旬～下旬
最終試験	2 月中旬	7 月下旬～9 月上旬

## 6 修士論文提出要件

修士論文または特定の課題についての研究成果は、学位規程第9条に基づき、修士課程に1年以上在学し、所定の授業科目のうち、20 単位以上を修得後に学位取得計画書を提出した後でなければ提出することができません。

## 7 修士論文計画書の提出について

提出期の計画書（様式）は、別紙を確認してください。

- （1）提出期限は厳守すること。提出期限後はいかなる理由があっても受理しません。
- （2）修士論文計画書提出に際しては、指導教員の承認を得てください。
- （3）既に提出した論文計画の変更は、認められません。ただし、論文提出以前においては、指導教員の承認を得て「論題変更届」を提出することができます。
- （4）計画書を提出したが、修士論文を提出しない場合は、指導教員の承認を得て「修士論文提出の辞退について」を教務センターへ提出してください。